

1 はじめに

附属支部は、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校でそれぞれ視聴覚・情報教育の研究および研修を行っている。ここでは、主に附属小学校の取組を紹介する。

2 附属小学校でのICT環境と授業実践

(1) モニターの活用

今年度、第4学年以上の教室と一部特別教室に、資料や写真、電子教科書を提示できる65型モニターを導入した。付属のペンを使って画面上で学習資料を操作できるため、画面の前で資料を指し示しながら教師が説明や、児童が発表を行うことができ、内容をより伝えやすくすることができる。

(2) タブレット端末の活用

教師用タブレット端末(iPad)を更新し、全教職員を対象にその操作方法についての研修を重ねている。今後、モニターと連動させた利用方法を含めて、この端末を活用してどのような授業作りができるか研究を重ねていく。

また、本校では各教室にルータを設置し、タブレット端末を利用してWebページが閲覧できるようにしている。そのため、授業において調べ学習を行う際には、紙媒体に加えて児童用タブレット端末を活用して調べることができる。その他にも、カメラ機能を利用して、体育科などにおいて自分自身の動きを撮影したのを見て確認したり、一つのことを長時間観察したいときにタイムラプス撮影したりすることに活用している。

(3) 人型ロボット「Pepper」の活用

第3学年で、プログラミング教育のツール「Robo Blocks」を利用して、手などの動き、話す言葉などを指示するプログラムを作成して人型ロボットに反映させる学習を行った。

また、それ以外にも、人型ロボットには様々なアプリケーションがインストールされているため、児童は積極的に都道府県クイズや算数テストなどに挑戦するなどして触れ合っている(写真1)。



写真1 人型ロボットと朝の挨拶をする様子

(4) 放送室の活用

放送室に、クロマキー合成ができる機器を導入した。この機能を利用して、マイクの前で話す児童と、カメラやノートパソコンに表示している画像を合成して放送することができるようになった。アナウンスする児童の背景を、全校に紹介する図書の本や(写真2)その日の給食の写真にして、見た目に分かりやすい放送を行うことができた。



写真2 背景に映し出された本を紹介する様子

3 おわりに

ICTを効果的に活用する方法を考え実践していくことは、児童の学びを充実したものにする手助けとなった。また、ICTの活用を積み重ねることで、児童から「実験の前と後の様子を撮影し、後で比較したい」、「電子教科書を画面に出して説明してくれた方が分かりやすい」のような声も出てくるようになった。今後は、ICTの効果的な活用方法について研究し、実践を重ねていきたい。